



大岡産業レディース「THE OPEN」トーナメント2024

8月2～4日
ポウルアロー松原店

幸木百合菜が中島瑞葵との同期生対決制し、2年ぶり2勝目!



▲第1回大会優勝者の川崎由意が幸木を祝福

◀「再優勝決定戦の終盤は緊張で過呼吸状態だった」という幸木。優勝決定の瞬間は喜びより安堵の気持ちが勝っていた!



◀惜しくも今季初Vはならなかった中島だが「無意識に左足のケガをかばって投げていたせいで腰の具合が悪かった。負けて悔しいけど回は最後まで投げ切れたことに感謝したい」と表情は明るかった



▲大会連覇を目指した坂本は3位敗退。「決勝レーンはラウンドロビンで投げたときに印象が悪くなったので難しい戦いになると思っていただけ、想像以上でした」

は中島が先にダブルで途切れ、緊張感MAXのなかでターキーを決めた幸木に軍配が上がった。同期のトップランナーを相手に「苦手」という競り合いを制しての2年ぶり2勝目は、中島のコンディションが万全ではなかったにしても自信になったに違いない。

幸木にとっては、今大会が「アイビーボウル向島所属」として最後の舞台でもあった。同センターは8月18日を最後に閉鎖・取り壊しとなり(7面に詳報)、幸木は9月1日付で相模原パークレーンズ所属となったが、環境が変わっても同期の中島、堀井に負けられない活躍を見せてくれそうだ。

大きかったトップシード獲得

初日、2日目の予選(16G)で8個ものパーフェクトが飛び出した今大会。オイルパターンが変わった最終日の準決勝(4G)も同様にハイアベレージで推移し、打ち合いを得意とする幸木はどちらも3位で通過したが、「準決勝からはコンディションがシビアになって、予選とは投げやすさがまったく違った」と、自身の「手応え」はかなり怪しかったという。

それでも、上位8名による決勝ラウンドロビンでは「いざ始まったら案外イケそうな感じになって(笑)」と、総当たり7G終了時点で5勝2敗。いつの間にか1位に浮上し、TV決勝でも使用される35・36Lで2位・霜出佳奈との最終ポジションマッチを迎えた。

「ポジションマッチのレーンは幅がなくて難しかった。とくに右のレーンがすごく遅く感じたので、立ち位置を3枚くらい内寄りに変えた」ものの、スコ

アは184どまり。だが、右投げの霜出も幸木以上にアジャストできず、171で敗れてTV決勝進出圏外の4位に後退。勝利ポイント30点を加算した幸木が、3・4位の対戦で248を打って2位に浮上した中島に51ポイント差をつけてトップシードを獲得し、末席の3位には246のスコアで5・6位対決に勝利した前回覇者の坂本かやが、6位からジャンプアップして飛び込んだ。

今大会のトップシードには、優勝決定戦で敗れても再決定戦の権利が与えられている。結果的にトップで残れたことが、幸木には大きく幸いした。

「苦手」の競り合いを制す

そして迎えたTV決勝。今季初勝利を目指す昨年の最年少3冠女王・中島と、大会連覇のかかる坂本との3位決定戦は「ポケットに入らな過ぎた。根本的に技術が足りなかった」という坂本が2連発スタート後はストライクがない上に2オープンと

失速。3連発スタートで9フレまでノーミス(10フレはビッグ5)の中島が200:174で勝利し、幸木との「同期生頂上決戦」に駒を進めた。

優勝決定戦は、序盤の1、3フレをともにオープン。4フレ以降は両者アジャストし、まるで合わせ鏡のような戦いとなったが、7フレからのストライクの応酬がフォースで途切れた幸木に対し、フィフスまで伸ばした中島が221:215で競り勝ち、優勝へ逆王手をかけた。

だが再決定戦の1フレ、中島は①②④⑩ワッシャーをカバー

●TV決勝ステップラダー



●優勝決定戦

中島 瑞葵	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	⑥	2	9	▲	⑦	2				8
	8	25	34	63	83	103	133	163	193	221
幸木百合菜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	①	2	▲	7	2	▲	9	▲	▲	9
	9	28	37	66	86	106	136	166	195	215

●再優勝決定戦

幸木百合菜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	▲	▲	▲	9	▲	▲	⑦	2	9	▲
	30	59	79	99	126	145	154	163	193	222
中島 瑞葵	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	6	3	9	▲	▲	8	▲	5	▲	9
	9	29	57	77	92	112	132	152	181	201



▲「今年に入ってボウリング自体はよくなっている感触はあった」と幸木。「苦手」という競り合いのゲームを制しての優勝は自信になっただろう



▲左から1～3位入賞者。右端はベストアマ(総合60位)の庭月野恵選手(X-BOWL東大阪)

幸木百合菜のコメント

再優勝決定戦があったおかげで何とか勝てました。7フレが割れて、8フレは⑦ピンをミスして差を詰められたので9、10フレは全集中で投げました。最後のほうは緊張して過呼吸みたいになっていました(苦笑)。大会前は体調が悪くて前日練習も投げなかったし、ブラインドも考えたけど、出てよかったです。

同期で同じ左の堀井(春花)プロが、今年に入ってボンボンと2勝したのは刺激になりました。同じ福岡出身の(中島)瑞葵ちゃんとは小さいときから一緒に投げてきて、アマチュア時代の新人戦で優勝を争ったこともあります(19年/幸木が勝利)。今回また決勝で当たったのはすごくうれしいし、同期のなかでもすでに3冠を取ったりし



▲副賞の北海道産「らんこし米60kg」の米俵(中身は入っていません)を担いでニコリ

てトップを走っている瑞葵ちゃんに勝てたのは自信になりました。

閉鎖が決まったアイビーボウル向島の所属としては最後の大会で優勝できて、お世話になった武田(陽)社長や応援してくださったセンターのお客さんにも、少しは恩返しのできたかなと思います。

優勝ボール: サンブリッジDV8ヘルキャット・XLR8